

令和6年度保育士・幼稚園教諭向け連続研修会のご案内

例年開催し、大変好評をいただいております『保育士・幼稚園教諭向け連続研修会（全3回）』を、令和6年度も下記のとおり行ないます。幼児期の自閉症児への理解を深め、適切な支援のあり方などを学んでいただくため、児童精神科医で豊田市こども発達センター センター長の若子理恵先生をお迎えして行なう『幼児期の自閉症基礎講座』やグループワーク、保護者の立場からのお話、自閉症疑似体験などを予定しております。参加ご希望の方は、開催要項をご覧の上、お申込み下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

研修日時・内容

《第1回》 令和6年6月2日（日）10:00～16:00

午前＝保育士向け自閉症基礎講座（豊田市こども発達センター センター長 若子理恵先生）

＊『幼児期の自閉症基礎講座』として基礎的な知識や、保育園・幼稚園など集団場面における自閉症児への対応について、児童精神科医の若子先生よりお話しいただきます。

午後＝サポートブック作成研修（愛知県ペアレント・メンター）

＊「サポートブック」とは、子どものことを周りの人に知っていただくためにいろいろな情報を盛り込んだツールで、冊子やカードなどがあります。本人活動の際や緊急時に利用するなど目的は多種多様です。この研修では、実際に作成していただきます。

《第2回》 令和6年7月7日（日）10:00～16:00

午前＝①自閉症疑似体験（愛知県ペアレント・メンター、キャラバン隊）

＊自閉症の子どもの感覚や感じる独特の世界を疑似体験していただきます。

②発表“自閉症の子どもをもつ親の気持ち～幼児期を中心に”（ ” ）

＊自閉症の子どもをもつ保護者の体験談などをお話しします。

午後＝ケース検討ワークショップ・グループ発表（助言：若子理恵先生）

＊4～5名のグループに分かれて、各グループでケース検討を行います。1グループに1名のペアレント・メンターがファシリテーターとして参加します。

《第3回》 令和6年10月6日（日）10:00～16:00

午前＝事例検討ワークショップ・グループ発表

＊4～5名のグループに分かれて、各グループで事例検討を行います。1グループに1名のペアレント・メンターがファシリテーターとして参加します。

午後＝助言と質疑応答（若子理恵先生）

＊第2回の研修後に現場へ持ち帰った事例へのフォローアップを行います。

※ワークショップ等では、至近距離で会話をすることになりますので、場合によってはマスク着用等をお願いすることもあります。その場合は運営スタッフの指示に従っていただきますようご協力をお願いします。

講師 ○若子 理恵（わかこ りえ）先生 児童精神科医／豊田市こども発達センター センター長

名古屋大学医学部附属病院、愛知県心身障害者コロニー中央病院、H18年豊田市こども発達センターのぞみ診療所などを経て H31 年より現職。主に自閉症を中心とした発達障がい臨床を専門とする。外来診療だけでなく一般、医師向けの講演のほか保育士など専門職の研修、関連図書の執筆なども数多く行っている。愛知県児童青年精神医学会評議員。

○ペアレント・メンター

メンター（mentor）とは「信頼のおける相談相手」という意味。現在、各地で障害のある子どもを持つ親自身が、診断を受けたばかりの子どもの親やさまざまな子育ての疑問を持つ親に対して、共感しながら話を聞いたり、地域の情報を提供するなどしており、愛知県では、研修を受けたペアレント・メンターが各種の活動を行っている。

会場＝名古屋市高齢者就業支援センター 大会議室

(名古屋市昭和区御器所通 3-12-1 御器所ステーションビル 5F)

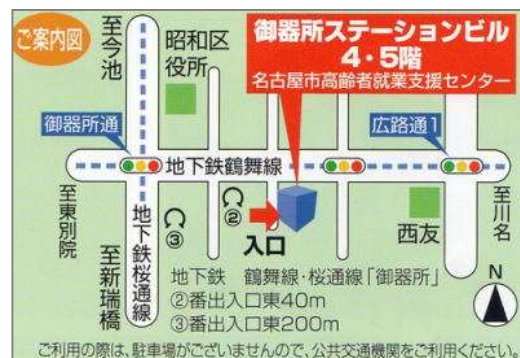
※3回とも同じ会場です。

*地下鉄鶴舞線②出口より東へ約40m、
または桜通線③出口より東へ約200m

公共交通機関をご利用下さい。

併設駐車場は、一般の方は利用できません。

お車でお越しの方は、自己負担で近隣のコイン
パーキングをご利用下さい。



対 象： 愛知県内に勤務されている保育士・幼稚園教諭等の方で、現在、自閉スペクトラム症等をはじめとする発達障害児の担任等で対応に困っており、その対応を学びたいという方で、原則として3回連続で参加できる方。

また第2回の事例検討に事例を持ち寄れる方。

* 3回連続で参加できる方、事例を持ち寄れる方を優先で受付いたしますが、ご都合でそれが難しい方でもお申込みはできます。

* 今までこの研修に参加されたことのない方を優先で受付いたします。

* 応募者多数で調整が必要になった場合は、同一園から複数でお申込みの方に園内での人数調整の依頼をさせていただくこともございます。そのため、同一園から複数で参加希望の場合は、お申込みの際に代表となる方を1名お知らせ下さい。

定 員： 50名程度（応募者多数の場合は、調整させていただきます）

参加費： 7,000円（全3回分）

* 事前振込みが必要です。詳細については【申込方法】をご覧ください。

なお、欠席された場合でも返金はいたしません。

申込締切＝令和6年5月10日（必着）



ご不明な点等がございましたら、当会事務所までお問い合わせ下さい。会場への直接のお問い合わせはご遠慮下さい。なお電話でのお問い合わせは、10時～15時までの間で行います。時間外や不在の場合は、FAX・メールまたは留守番電話にメッセージをお入れいただければ、折り返しご連絡いたします。

特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会 主催

あいち発達障害者支援センター、名古屋市発達障害者支援センター 共催

【申込方法】 ！ 事前に、下記の方法でお申込み下さい！

Eメール または FAX で事前にお申込み下さい。
参加の可否は締切後(調整が必要な場合はその後)、申込者全員にご連絡いたしますのでしばらくお待ち下さい。

※ お申込みなしでの当日参加はできません。ご協力をお願いします。

<お申込みから受講までの流れ>

- ① Eメール または FAX で下記までお申し込み下さい。
件名を『保育士連続研修参加希望』とし、以下の項目をご記入下さい。
- ①参加者氏名
 - ②〒・ご住所(勤務先の場合は名称もご記入下さい)
 - ③連絡先(自宅や携帯など確実に連絡の取れる電話番号、また連絡可能な時間)
 - ④FAX番号(自宅か勤務先園かも明記)
 - ⑤所属園名、園所在の市区町村名、園でのお立場
 - ⑥保育士としての経験年数および自閉症の子どもを担当したことのある年数
 - ⑦現在、主に支援している自閉スペクトラム症の子どもの年齢
 - ⑧現在、対応に困っていることやこの研修会に望むことなど
 - ⑨参加証の返送方法・宛先(メールアドレス・FAX番号のいずれかを明記)
- ※記入漏れのないよう、ご注意下さい。
なお、メール等への申込受領の返信はいたしませんので、ご了承下さい。



- ② 締切日以降(応募者多数で調整が必要な場合は調整後)、参加決定者の皆様へは参加費お支払いについてのご案内をお送りいたしますので、指定口座へのお振込みをお願いします。
なお、申し訳ございませんが、お支払いの際の払込手数料は各自でご負担いただきますようお願いいたします。



- ③ 参加費のご入金を確認でき次第、Eメール・FAXなどそれぞれご指定いただいた方法で参加証をお送りしますので、当日忘れないようお持ち下さい。スマートフォンからのお申込みで印刷できないという方は、画面で確認いたしますので、メールを保存しておいていただくようお願いいたします。
なお、Eメールでお申込みの場合は、必ず事前に当会からのメールが受信できるメール設定をしておいていただきますよう、ご協力をお願いいたします。
※領収書が必要な方は、研修会当日にお渡しいたします。受付でお申し出下さい。

《申込先》

FAX&TEL; 052-323-0298、E-mail; tubomi-aa@nifty.com

特非)愛知県自閉症協会・つぼみの会「保育士連続研修」係



この「保育士・幼稚園教諭向け連続研修会」は、令和6年度で17回目の開催となりますが、毎年、参加された方々から好評をいただいております。昨年の終了後のアンケートから、参加者の皆様のご感想をご紹介します。

幼児期の自閉症基礎講座

- 自閉症の特性についてわかりやすい具体例もあり、納得できる興味ある内容だった。一人ひとり特性に違いがあることを忘れずに個々にあった援助をしていきたい。保護者との連携でも障害受容が難しい方、話にくい方など保護者対応で日々悩んだり迷ったりしているが、実際のエピソードを聴くことができて参考になった。
- 障害の名称が変わるなど新しい情報が聞けてよかった。子どもたちが置かれている状況、どのような心理状態なのか少し理解できた気がする。今の保育でいいのか、工夫の方法を改めて考えさせられた。
- 今まで知っているつもりになっていた部分を改めて考え知ることができた。「なぜできないのか？どう関わったらいいのか？」と具体的な内容で分かりやすかった。担当の子どもの偏食やこだわりに悩んでいたが、感覚が変化することがあると聞き、無理に直さず「今回は無理でも次回はできるかもしれない」という気持ちで少しずつ挑戦していきたい。
- ついで、対応や支援方法ばかり考えてしまいがちだが、まずはその子どもへの理解を深めていくことが大切だと思った。一生懸命になって方向性を間違えると子どもに負担になってしまうし、講座を受けていろいろと考えさせられた。
- 親の育て方が原因という偏見がまだ残っている。特にグレーゾーンの子どものことについてはそれが根強い。特性があっても環境整備や必要な支援をすることで困りごとが減るなら、原因よりも関わり方を広めていく方が大切だと感じた。

サポートブック(SB)作成研修

- 勤務先の市でも数年前からSB作成が始まった。どこまで具体的に書くのか、まだまだ迷いながら作っている。
- 伝える相手、使う場面に応じて記入内容を変える必要を感じた。記入していくことで子どもを客観的に見ることができ、自分の考え方や対応も再確認できた。成長とともに見直して、指導要録や申し送りとは別の物として活用できそう。
- 講師の方が自分の息子さんの具体的なことを話して下さったのでわかりやすかった。
- 子どもをしっかり理解していないと書けない。園で子どもの記録を書くことは多いが、箇条書きで書くことは難しかった。
- SBIは、今まで保護者の方が書いたものに目を通す立場だったので、自分が書くことは初めて。第三者に見せることを考えながら書く、担当の先生以外の方がその子の支援をいつも通りに行うことができる様に書くのは難しいが、子どもが穏やかに過ごすことができるなら、情報共有・支援ツールとしてとてもいいと思う。

擬似体験・保護者の思い

- 擬似体験は何度もしているが、辛さの再確認をした。軍手着用での折り紙で「頑張れ！早く！」はかなりのプレッシャーで、できないことよりキャラバン隊の声掛けの方が嫌で途中で投げ出したくなった。以前、途中で折り紙をクシャクシャにして投げた子がいたが、こんな気持ちだったのだろう。良かれと思った支援が実は不安にさせていたのかもと思った。
- 保護者の方からの話は、幼児期以降の話のを伺えてとても良かった。試行錯誤しながら、自分たちが今行っていることが将来につながっていくのだと思い、やりがいを感じるお話だった。
- 親の気持ちはデリケートな問題。同じ子どもを見ていても保護者の想いと保育者の想いは違うと感じた。
- 最近は2才から療育に行かれている方も増え、保護者と相談しながら対応している。親子二人への支援をしっかりしたい。
- 障害受容に長い時間がかかることなどを知った。保護者の状況を考えて、寄り添った支援をしていきたい。

事例検討ワークショップ

- 取組み後のフォローアップをしたことで、なかなかじっくり振り返ることができなかった部分まで考えることができた。
- 保護者からの要求が年々増えていく中で、信頼関係を築いていったり、自分自身のメンタルを保たなければならなかったりと色々大変だが、皆さんとの話で明日からまた頑張れそう。
- 参加者やメンターの方と意見を交わし、自分自身気づかなかったところを振り返ることができた。保育士の気持ちを押し付けるのではなく、まずは子どもの気持ちに寄り添うことが大切だと改めて理解することができたと思う。
- 一つの事例でも様々な意見が出ることで見方を変えることができた。今の取り組みが間違っていないこと、新しい意見も聞くことができたと思うが、短時間でまっさらな状態からまとめる難しさを感じた。もう少しじっくり話したかった。
- 緊張してやり方がわからずまごついたが、メンターがヒントを出してくれたので、意見を出すことができた。
- 対象児と向かい合って保育をしているが、客観的に子どものことを話したり他児のことをきくことができて良かった。
- 時間の経過で解決している所もあるが新たな問題も出てきたので、その部分も意見交換できてよかった。解決策がすぐ見つかるわけではないが、見方を変えることができて貴重な体験だった。若手先生のアドバイスもよかった。
- 事例を聞くと同じように悩んでいる先生がいて安心した。園の方針や職員配置の関係で対応できないことに直面して歯がゆい思いをしたことがあるが、グループの方に話すことができて気持ちが少し楽になった。